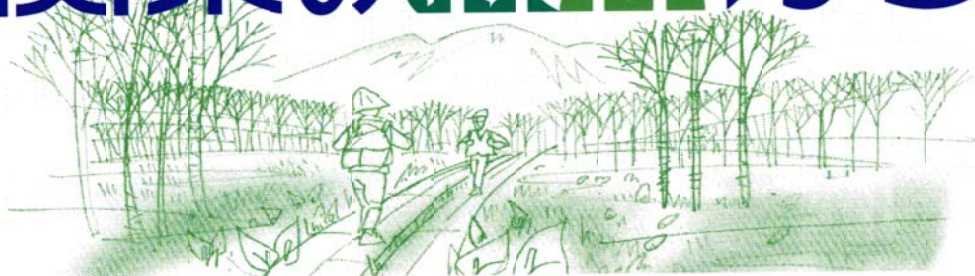


平成23年11月1日

第92号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



初冠雪の雨飾山（新潟県糸魚川市：平成23年10月3日撮影）

（撮影者：上越森林管理署 栗田 喜則）

東日本大震災において被災した海岸防災林の再生について

森林整備部 治山課

私と国有林

「移り行く大自然の中に生きる 黒瀧山不動寺」

黄檗宗黒瀧山不動寺 住職 長岡 良圓 氏



2011・国際森林年

東日本大震災において被災した 海岸防災林の再生について

森林整備部 治山課



写真1 被災した松川浦海岸防災林の上空より



写真2 松川浦海岸防災林の被災状況

平成23年3月11日14時46分に三陸沖で発生したマグニチュード9.0の我が国観測史上最大規模の東北地方太平洋沖地震では、岩手県から千葉県の広い範囲で震度6弱以上の強い揺れを観測しました。また、この地震によって生じた大規模な津波により東日本の太平洋沿岸部を中心に戦後の自然災害としては最も甚大な被害が生じました。

初動対応

関東森林管理局では、本震後直ちに、「関東森林管理局地震対策本部」を設置するとともに、翌日には、ヘリコプターにより福島県から新潟県にかけての管内森林の被害状況を調査し、通信環境もままならない状況の中で、林野本庁や関係森林管理署、被災県との情報共有に努めました。（この時点で、福島第一原子力発電所の30キロ圏内は既に飛行禁止措置がとられていたため、調査隊も浜通り中部の飛行禁止区域を迂回して調査を行いました。）

海岸防災林の被災状況

相馬市松川浦をはじめとする福島県北部の海岸防災林は壊滅的な被害（写真1、2）を受けましたが、いわき市以南については、津波による浸水被害が認められたものの立木自体の被害は比較的軽微であり、逆に、大量の漂流物を補足するなど、後背

地に対する津波被害の軽減に大きな効果を発揮している状況がみられました（写真3）。なお、いわき市新舞子の海岸防災林に漂着した漂流物については、後日、管轄する磐城森林管理署において撤去作業が行われました（写真4）。

そもそも、海岸防災林は、地域住民が長年にわたって育み、飛砂・風害・潮害の防備や白砂青松に代表される美しい景観の形成に大きな役割を果たすなど、地域社会と密接な関わりを有してきた歴史的な背景があります（写真5…被災前の松川浦国有林）。

海岸防災林の再生復旧方法の検討

林野庁においては、こうした海岸防災林の再生が、被災地域の復旧・復興の一翼を担うべきものであることから、学識経験者からなる海岸防災林の再生に関する検討会を設置し、海岸防災林の被害状況の把握、防災効果の検証、復旧方法等について検討を行うとともに、去る7月には中間報告をとりまとめたところです。

その中では、海岸防災林は飛砂や潮風害の防備等の災害防止機能を有すること、地域の生活環境の保全に重要な役割を果たすとともに、津波エネルギーの減衰や到達時間の遅延、漂流物の補足などの津波被害の軽減効果を持つことが改めて評価されています。



写真4 いわき市新舞子海岸防災林での瓦礫撤去作業



写真3 いわき市新舞子海岸防災林の津波漂流物補足状況



写真5 被災前の美しい景観の松川浦海岸防災林



海岸防災林の被害箇所位置図

海岸防災林の再生に向けて

関東森林管理局としては、海岸防災林の早期の復旧・再生に向け、その技術的知見や地域の復興計画の検討状況などを十分に踏まえつつ、関係機関との連携の下、鋭意検討を進めていくこととしています。

さらに、中間報告では、海岸防災林の再生に当たっては、地域の復興のランドデザインとの整合を図りつつ、被災箇所ごとに被災状況や地域の実情、さらには地域の生態系保全の必要性等に応じた再生方法を決定していくとともに、地域の防災機能を確保する観点から、海岸防災林の津波に対する減災機能も考慮し、①地盤高が低く地下水位が高い箇所では、盛土による地盤高の確保により植栽木の根系の垂直方向への発達を促し、その土壌緊縛力を高めること、②海岸防災林の生活環境保全機能や津波エネルギーの減衰効果等を期待する観点から一定の林帯幅を確保することが望ましいこと、③瓦礫等を盛土材として利用する場合には、沿岸漁業への影響等周辺環境への影響が生じないよう無害化された再生資材や建設発生土等に限定すること、④植栽木については、マツだけでなく広葉樹についても考慮し、地域住民等の参画による植栽や保育等についても検討することなどが提案されています。

●海岸防災林の再生イメージ



高尾の森から

秋の自然観察会

もうすぐ高尾山が色彩豊かな紅葉に包まれる季節となります。

高尾山口までのアクセスは、新宿から1時間程であり、また、登山コースも整備され、植物の種類が豊富なことなどから年間を通して大勢の人々が訪れています。

この高尾山口にある高尾森林センターでは、市民からの公募や学校からの依頼などによる各種イベントを数多く実施しています。秋の花が終わりに近づいた今の季節は、木や草の実が目立つようになり、イベントのプログラムでは、こうした草木を対象とした自然観察を行う機会が多くなります。

今回は、私たちが行っている秋の自然観察会でのプログラムなどについてご紹介します。



高尾山の綺麗な紅葉



ツリフネソウ

写真のツリフネソウは、美しい紫の花を次々と咲かせます。それらが結実すると日に日にさやが膨らみ、成熟すると指が少し触れただけでパチンと弾けて、バネのようにクルツと丸まる勢いで種が弾き飛ばされます。

これは種子をできるだけ遠くへ飛ばし、子孫が密集して発芽することを防ぐための知恵だといわれています。子どもたちに

試してもらおうと、パチンの音とともに種が弾け飛ぶ様子に大喜びです。大人も楽しめる人気のメニューになっています。



左から実の成長過程



ヌスビトハギの葉

フジカンゾウの葉

フジカンゾウの実

ひつつき虫(くつつき虫)

ヌスビトハギの実

秋に山を歩くと衣服に草の実がついて困ったことがあります。俗に「ひつつき虫(くつつき虫)」といわれる植物にも出会います。

例えば右の写真、実が大きい方はフジカンゾウ、小さい方はヌスビトハギです。実は同じ形で見分けるのにとまどいますが、葉っぱの違いで見分けます。写真の左は小葉が7つのフジカンゾウ(奇数羽状複葉)、右のヌスビトハギは3つの小葉からなり、葉っぱの数の違いで見分けることができます。子どもたちも一度で覚えてくれます。

ひつつき虫の植物には、実の表面のトゲで着くものや粘液で粘り着くもの、トゲが鉤状になったものなどがあり、動物の体にくっついて遠く

に子孫を拡げる知恵だといわれています。イノコヅチやダイコンソウ、チヂミザサ、ノブキ、メナモミなどが代表種です。

このほかにも、種に毛や翼を付けて風に運んでもらうもの、鳥に食べてもらって糞とともに外に出て発芽するものもあります。写真はモズが木の実を食べているところです。



木の実を食べるモズ

自然観察では、植物の説明のほか、森に様々な種類の植物があることにより、それぞれの葉っぱや実などを食べに色々な昆虫や鳥たちが集まる食物連鎖の話や、樹木の枯れ枝や葉が土の中の小動物や菌類により分解されることで土に養分が還り、根から再び吸収され森が成長する話などをします。

このように植物の繁殖の巧みな知恵や鳥の声、風の音、沢水の清らかさ、斜面登りなど、森林や林業に関する知識だけでなく、子どもたちの冒険心や感性を高める工夫を色々としています。



発表する大井川治山センター井上調査係長

第51回治山研究発表会が 開催されました

森林整備部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会が9月27日・28日に東京都代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、各森林管理局、道県、コンサルタント会社等が参加しました。

今年度の発表会は、「治山計画、地すべり等の取組」「斜面・溪流対策等の取組」「木材利用、森林造成・整備の取組」「緑化、環境への配慮、事業実施の工夫等の取組」の4つのセクションに分かれ行われました。当局からは「斜面・溪流対策等の取組」のセクションで大井川治山センターの井上調査係長、相澤技術専

発表者
発表する磐城署
湯本治山事業所主任

津波により樹木が流失した海岸林

門官により「簡易法梓工における法枠内の緑化促進対策について」を、「木材利用、森林造成・整備の取組」のセクションでは磐城森林管理署の湯本原町治山事業所主任、森治山課長、国土防災技術(株) 関東支社環境保全部中澤洋グループ長との共同研究による「東日本大震災における海岸防災林の被害状況報告」の2課題を発表しました。

研究発表では、全体で42課題あり、磐城森林管理署と国土防災技術(株)との共同研究が最優秀賞を受賞しました。

今回の受賞は東日本大震災で被害を受けた海岸防災林の被害状況を樹形、地形、地下水の状況等から被災メカニズムを説明し、今後の復旧にあたってのポイントを解りやすくまとめたことが評価されました。

第31回 木と暮らしのふれあい展

東京事務所

秋の涼しさを感じられる10月1日・2日の両日、第31回「木と暮らしのふれあい展」(主催東京都・社団法人東京都木材団体連合会)が木場公園で開催され、東京事務所と大井川治山センターが出展し国有林のPRを行いました。

この催しは「森を育てたい。だから木を使おう。」をメインテーマに、東京都民に木とふれあえる機会を提供し、暮らしの中での木材利用を推進することを目的としています。

当日は、東京都の各木材団体等が一堂に会し、木工教室等の木とふれあう体験や木製品の展示販売、木造住宅相談、特産物の販売、アトラクション等が行われ、来場者は5万5千人に達し、大いに賑わいました。

東京事務所では、木工品や木酢液等の販売のほか、小枝のもつくん(枝を切り取り、人に見立てて作るキーホルダーなど)、木の実のリース等の森林クラフト体験を行うとともに、クイズを出題し小笠原諸島の世界自然遺産登録のPRを行いました。また、大井川治山センターは、木材を使った治山事業のパネル紹介と枝で作った輪ゴム鉄砲で射的を行い、行列ができるほどの大変な人気でした。



会場から望めるスカイツリー



射的に並ぶ親子連れ



群馬県指定天然記念物 黒滝山のスギ

徳川五代綱吉公や諸大名が帰依した高僧として知られた潮音道海禪師が中興した黄檗宗黒瀧山不動寺（群馬県甘楽郡南牧村）は、妙義荒船佐久高原国定公園の南東に位置して入山者を迎え送る玄関口になっていることから、山寺の住職は国定公園の自然公園指導員を引き受けて昨年の3月まで40年間そのお役目を務めておりました。

黒瀧山は日東岩・星中岩・月西岩と呼ぶ三岩が立ち並び、その岩間から竜神の滝が深山の静けさの中に洄れることない神韻なる妙音を響かせており、その源は国有林となっています。

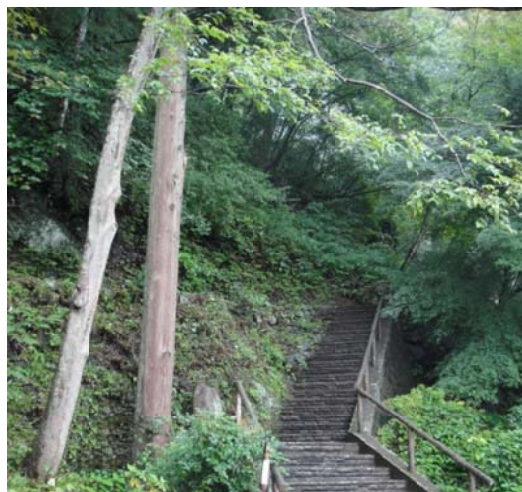


私と国有林

「移り行く大自然の中に生きる」

黒瀧山不動寺

黄檗宗黒瀧山不動寺 住職 長岡 良圓



石段の奥には開山堂が

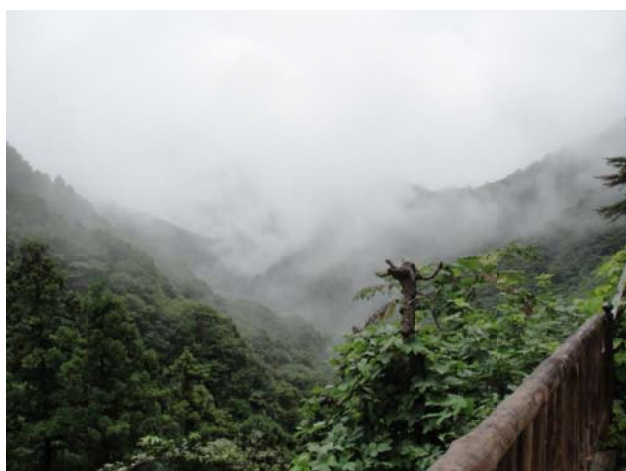
ここに山寺を開いた潮音禪師はこの幽崖に舞う滝しぶきを心身に浴びれば悩みも穢れも忽ちに消え去ると直感され、今まで求めつづけて来た我が念に適う霊境の地と決めて黒瀧の山を本寺と定め、人々を教え導き、元禄6年には全国に末寺二百余ヶ寺の記録を残しました。

その後、時代が移って山寺も昔の形態とは変わりましたが、開山和尚から代々伝わる山寺を守る気概を大切に受け継いで日々の活動が続いております。

黒瀧山から続く山々は国有林の大森林が広がり滝峠からトヤ山、毛無岩そして荒船山へと道程が延びて古き時代には上信国境を結ぶ隠れた峠道として行き来があり、修験行者が黒瀧不動から荒船不動を回峰した行者道の伝承も残しています。

私も折りあるとき、この古道を山の仲間と、時には一人で登ります。年ごとに山道の木々も成長して、今まで足を休めた時に見られた各処の絶景が木の枝葉に遮られて残念に思ったり、大自然は生きている証しだと納得しながら、トヤ山や毛無岩の頂上に立って見下す黒瀧山や稲含山、また遠くに関東平野の一望の中に群馬県庁、上毛三山や秩父の山並、谷川連峰等々展望して山登り回峰行の素晴らしさを体感し、訪れる山人たちにこの山々の環境、大自然を守る大切さ、寺の歴史との関係など伝え続けることも山寺に住む和尚の務めの一つと行じています。

四季の風光も吹き渡る風も太陽の光りも大古の昔から変わらなないと思いつつも、この夏はコノハズク（仏法僧）が鳴かずに秋を迎えてしまいました。東日本大震災や福島原発災害、異常気象などが影響して目に見えない障害が霊鳥仏法僧の活動を押さえってしまったのではないかと気になります。広くて大きな国有林の果たす自然回復力に期待しています。



眼下の森



しょうろう 鐘楼脇にて

森づくり最前線

会津森林管理署 大芦森林事務所 森林官 星野 要



からむし織 (写真提供: 福島県昭和村)



ブナ林

管内には、ブナの原生林など手つかずの自然が残されている「大窪湿原」などがあり、その湿原をレクリエーションの森林として開放し、より魅力ある湿原として整備・活用することを村や地元教育機関と計画しています。

また、貴重な動植物や森林環境を保全するために設定した「保護林」や、それらを結びつけて野生動植物が移動し、生活の場を広げ、より多様で充実した森林生態系を目指した「会津山地緑の回廊」(面積約105千畝、延長約100キロメートル)などを設定しています。

今後は、森林のもつ公益的機能を更に発揮できるよう、一度に伐採して植林する施業から間伐方式による抜き伐りを繰り返し、自然力を生かして天然林に誘導していく施業を行い、生物多様性の確保に配慮した森林整備を目指していきたいと思っています。

当事務所は、昔から地元の方々との親交が深く、現在も森林官の旧呼称である「担当区さん」と気軽に声をかけていただき、村民運動会など村の行事に参加させていただいています。

このような交流をきっかけに地元の方々の要望を把握し、業務に反映できるよう、お互い支え合えるような関係を築いていきたいと考えています。

私の勤務する大芦森林事務所は、福島県西部、会津地方の昭和村大芦地区に位置し、周囲を御前ヶ岳(標高1,234メートル)をはじめとする山々に囲まれ、春の芽吹き、夏のまばゆい緑、秋の色鮮やかな紅葉、冬には一面白銀の世界となり事務所周辺での積雪は約2メートルと、四季折々の自然豊かな素晴らしい姿を見せてくれます。

当事務所が所在している昭和村は、「からむし織の里」として知られており、伝統織物の原料となる苧麻のほかカスミソウの栽培が盛んに行われています。

苧麻は室町時代に会津藩主が栽培を奨励したことが始まりで、現在はユネスコ無形文化遺産に登録されている「小千谷縮・越後上布」の原料になります。一方、カスミソウの栽培は、昭和50年代後半葉タバコの廃作として始まり、現在では夏秋期の栽培面積全国1位となっています。

管理している国有林の面積は、JR山手線沿線内とほぼ同じ5千2百畝あり、その約95畝は保安林に指定され、大部分が標高800メートル以上に位置しています。森林の現況は、主に林齢40年生前後のカラマツやスギを主とした人工林とブナ等の天然林で構成されています。

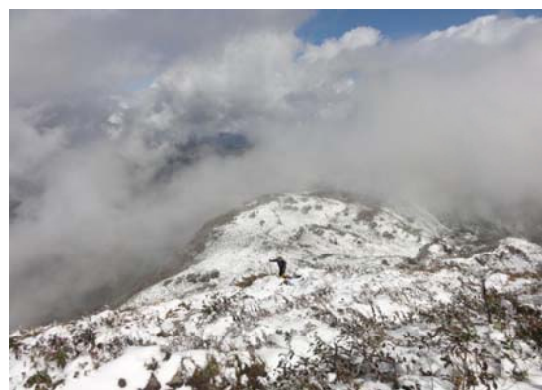


自然が残されている「大窪湿原」



収穫調査中の筆者

あまかざりやま 管内の百名山「雨飾山」



雨飾山山頂から新潟県側登山ルートを望む



新潟県側の「秘湯」 「都忘れの湯」

山頂は360度のパノラマが開けており、北アルプス、後立山連峰をはじめ、活火山の焼山や金山に通じる茂倉尾根の豊かな山容や、日本海の水平線を望むと、鋸岳、鬼ヶ面山、駒ヶ岳の連山が足元に広がるなど雄大な眺望を楽しむことができます。

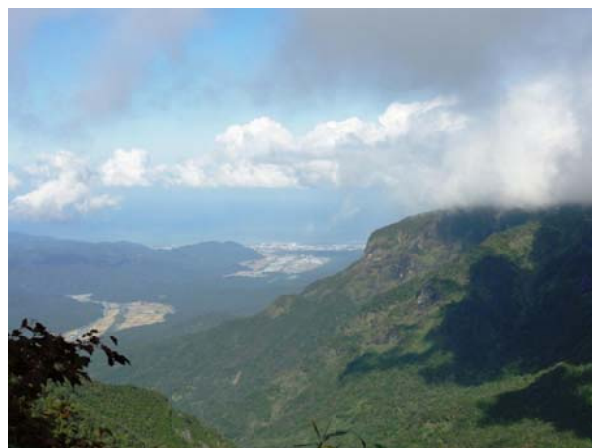
上越森林管理署では、森林パトロールなどを通じ、雨飾山周辺における豊かな自然の保全や登山者へのマナー向上を呼びかけています。

「雨飾山（標高1,963㍎）」は、上信越高原国立公園の西端に位置し、新潟県糸魚川市と長野県北安曇郡小谷村との県境に位置する頸城連峰の一つです。

雨飾山という名前の由来は、雨や天を祀る山である「アマ山」から来ているという説や、山頂が双耳峰なので雨飾山、雨粧山等と呼ばれていたが「雨」が「雨」になったという説があると言われています。

雨飾山には幾つかの登山道があり、両方の県から山頂を目指すことができ、登山口のどちらにも「秘湯」と言われる雨飾温泉（新潟県側）や小谷温泉（長野県側）があることもあって、人気の百名山の一つとなっています。

新潟県側からのルートは、雨飾山荘前にある露天風呂「都忘れの湯」のすぐ横から登山道が始まり、石畳の坂を登ると稜線の「難所のぞき」に出ます。そこからブナの林とナナカマド等の木々に囲まれた急な登りが、「一ぷく処」を経て「中ノ池」まで続きます。「中ノ池」からは急峻で浮き石が点在する登山道になり、徐々に登りが緩やかになると熊笹に覆われた「笹平」の分岐点が見えてきます。その分岐点を右方向に進むと山頂に到達します。



（上越森林管理署 広報広聴連絡官 伊藤 武徳）

中ノ池から山頂に向かう急坂から駒ヶ岳を右に日本海を眺望

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159

http://www.rinamaff.go.jp/kanto/nkhou/news/index.html

〒321-1274 栃木県日光市土沢1-473-1
電話番号 (0288) 22-1069
担当・業務課 森林ふれあい係

お申し込み・お問い合わせ先
日光森林管理署

参加費 200円・保険料等を当日徴収
（中学生以下無料）

申込締切 平成23年12月2日（金）
ただし、定員になりしだい受付を終了します。

申込方法 日光森林管理署へお電話により申し込み願います。
（受付時間：土・日、祝日を除く9時00分～17時00分）

実施日 平成23年12月4日（日）
開催場所 栃木県日光市小倉山国有林周辺
集合場所 日光交流促進センター駐車場
募集人員 30名（先着順）

そこに生息する野鳥を観察しながら、森林の大切さを感じてみませんか。

日本野鳥の会栃木との共催により野鳥観察会と木工工作を行います。

日光市小倉山「野鳥の森」周辺において、

国際森林年記念

森林と野鳥に親しむこと

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集

参加者募集